

授業科目(ナンバリング)	社会福祉総合演習(福祉専門) (DB409)			担当教員	坂本雅俊・中村龍文・大島啓・韓榮芝 脇野幸太郎・柳智盛・梅野潤子・妻孝承 ヴィラーグ ヴィクトル・木下一雄 野田健・星野秀治・丸山貴志・中村尚生		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
前後期に行われる「社会福祉総合演習」のねらいは、変動する地域社会における福祉の問題はもちろん、教育や医療、司法等の幅広い領域の問題にも対応しうる、人間尊重を理念としたソーシャルワーカーとなることを最終目標に据え、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に向けて、社会福祉に関する専門的な知識を確実に定着させることにある。そこで、この授業では、前期に実施している「社会福祉総合演習(福祉共通)」の流れを受け、国家試験問題等を用いて専門知識の定着度を確認していき、不足分について「解く」を繰り返すことによって補っていく。							⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	専門的な知識や技術の理解を深め、活用することができる。					定期試験 レベルチェック テスト	40% 30%
情報収集、分析力	専門的な知識や技術に関する情報や、学修進捗状況を確認する情報等を収集し、それに基づく対応ができる。					カルテ	15%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	学修計画を立てて実施し、定期的知識・技術の習得度を確認し改善を図るPDCAサイクルにて能動的に学修していくことができる。					授業態度等	15%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験(40%)：国家試験と同じ形式にて行い、持ち込みは不可とする。出題数・範囲等は授業内で説明する。</p> <p>レベルチェックテスト(30%)：形式は定期試験と同様である。6・11・15コマで行うが、点数が9割を超えるまで再試験を実施する形をとる。</p> <p>カルテ(15%)：レベルチェックテスト等の点数を記録するカルテを用いて自己分析を行っているかを評価する。</p> <p>授業態度等(15%)：能動的な学修をしているかを評価する。また随時、学修に関する面談や学修進捗状況アンケート等を実施するが、それへの姿勢も評価の対象とする。</p> <p>フィードバック：基本的にはカルテを用いてフィードバックしていくが、場合に応じて面談を実施する。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験を合格することを志す者が集うところである。そのため、履修する者全てに専門職者になろうとする情熱と弛まぬ努力が求められる。授業内容は、社会福祉士国家試験の19科目の全科目を範囲とし、9月の模擬試験を基に重要ポイント解説等を行う。また、テーマに応じて、ペアワークやグループワーク、ディスカッション等を適宜取り入れる。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：指定しない</p> <p>参考書：医療情報科学研究所(2019)『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』株式会社メディックメディア 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会(2019)『社会福祉士ワークブック』中央法規出版</p> <p>指定図書：9月に実施する模擬試験問題とその解説</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>社会福祉士・精神保健福祉士国家試験予定者は必ず履修すること。</p> <p>国家試験に合格するためには、絶えず課題や自己学修を行っていく強い意志と実行力が求められる。本科目時間以外でも学修支援をしていく予定であるため、それらには必ず参加すること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・オリエンテーション ・国家試験受験申込の説明	この授業の流れや、国家試験受験やそれへの合格支援等に関する説明を行う。また、国家試験受験申込の説明も行う。(全担当教員)	予・復) 国家試験に合格する志を明確にする。
2	・学修方法のすすめ ・相談援助の基盤と専門職	残り約 4 か月に渡る学修の方法と合格支援プログラムについて理解する。また、「相談援助の基盤と専門職」についての知識の確認を行う。(野田)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 91～97 を解き直す。
3	・社会理論と社会システム ・現代社会と福祉	「社会理論と社会システム」「現代社会と福祉」についての知識の確認を行う。(大島)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 15～21、22～31 を解き直す。
4	・人体の構造と機能及び疾病 ・地域福祉の理論と方法	「人体の構造と機能及び疾病」「地域福祉の理論と方法」についての知識の確認を行う。(中村(龍)・韓)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 1～7、32～41 を解き直す。
5	・社会調査の基礎 ・児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	「社会調査の基礎」「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」についての知識の確認を行う。(ヴィラーク・表・梅野)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 84～90、136～142 を解き直す。
6	レベルチェックテスト①	授業 2～5 コマで行った 7 科目に関するレベルチェックテスト①を行い、知識の定着度を図る。	予) 7 科目の復習をする。 復) レベルチェックテスト①を解き直す。
7	・障害に対する支援と障害者自立支援制度	「障害に対する支援と障害者自立支援制度」についての知識の確認を行う。(木下)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 56～62 を解き直す。
8	・社会保障 ・低所得者に対する支援と生活保護制度	「社会保障」「低所得者に対する支援と生活保護制度」についての知識の確認を行う。(脇野)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 49～55、63～69 を解き直す。
9	・保健医療サービス ・高齢者に対する支援と介護保険制度	「保健医療サービス」「高齢者に対する支援と介護保険制度」についての知識の確認を行う。(坂本・表)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 70～76、126～135 を解き直す。
10	・権利擁護と成年後見制度 ・更生保護	「権利擁護と成年後見制度」「更生保護」についての知識の確認を行う。(星野・丸山)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 77～83、147～150 を解き直す。
11	レベルチェックテスト②	授業 7～10 コマで行った 7 科目に関するレベルチェックテスト②を行い、知識の定着度を図る。	予) 7 科目の復習をする。 復) レベルチェックテスト②を解き直す。
12	・相談援助の理論と方法	「相談援助の理論と方法」についての知識の確認を行う。(ヴィラーク・丸山)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 98～118 を解き直す。
13	・心理学理論と心理的支援 ・就労支援サービス	「心理学理論と心理的支援」「相談援助の基盤と専門職」についての知識の確認を行う。(柳・中村(尚)・野田)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 8～14、143～146 を解き直す。
14	・福祉行財政と福祉計画 ・福祉サービスの組織と経営	「福祉行財政と福祉計画」「福祉サービスの組織と経営」についての知識の確認を行う。(星野・野田)	予) 模擬試験を熟読する。 復) 9 月模試問題 42～48、119～125 を解き直す。
15	レベルチェックテスト③	授業 12～14 コマに行った 5 科目に関するレベルチェックテスト③を行い、知識の定着度を図る。	予) 5 科目の復習をする。 復) レベルチェックテスト③を解き直す。
16	定期試験		